

1 まず知っておきたいこと

目次

- 1 GIGAスクール構想とは
- 2 令和の日本型学校教育とGIGAスクール構想
- 3 かわさきGIGAスクール構想とは
- 4 ステップ3 一人一人の子どもが主語の端末活用
- 5 学習の基盤となる情報活用能力
- 6 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023
- 7 情報活用能力チェックリストの活用
- 8 情報活用能力チェックリストを生かしたカリキュラム・マネジメント
- 9 GIGAスクール構想推進計画シート ステップ3
- 10 プログラミング教育
- 11 国の動向とCBT・MEXCBT・学習 e ポータル
- 12 ステップ3と川崎市が目指すデータの利活用
- 13 デジタル教科書・副読本
- 14 家庭でも端末を活用して主体的に学ぶ
- 15 校内GIGA推進と同僚性・関係性
- 16 校内GIGA推進と支援員
- 17 教員のICT指導力と研修
- 18 川崎市で連携して推進するGIGAスクール構想

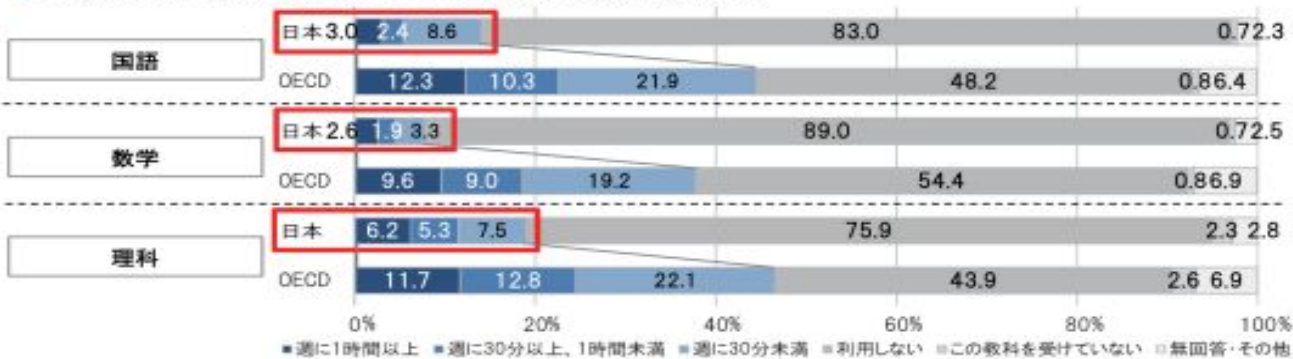
付録

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023体系表

1-1 GIGAスクール構想とは

Society5.0時代に生きる児童生徒の未来を見据え、学習指導要領には情報活用能力（情報モラルを含む。）が学習の基盤となる資質・能力に位置づけられました。しかしながら、学校の授業におけるデジタル機器の利用時間はOECD加盟国で最下位でした。令和の時代における学校にとって1人1台端末環境は「スタンダード」としてGIGAスクール構想が打ち出されました。

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



（出典：OECD生徒の学習到達度調査（PISA2018）「ICT活用調査」）

Global and Innovation Gateway for All

- ❑ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- ❑ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。
令和元年12月 文部科学省「GIGAスクール構想」

これまでの
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

1-2 令和の日本型学校教育とGIGAスクール構想

「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、ICTは必要不可欠です。これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが大切です。ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意し、PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要であるとともに、健康面を含め、ICTが児童生徒に与える影響にも留意することが必要です。ICTの全面的な活用により、学校の組織文化、教師に求められる資質・能力も変わっていく中で、Society5.0時代にふさわしい学校の実現が必要です。

文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）【概要】



資質・能力

- ・各教科等で育成を目指す資質・能力
- ・学習の基盤となる資質・能力
(言語能力、情報活用能力、
問題発見・解決能力)

授業改善

主体的・対話的で深い学び

一体的に充実

個別最適な学び 協働的な学び

ICTの強みを生かす

探究的な学習や体験活動等を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する。一人一人のよき点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す。

指導の個別化

支援が必要な子どもにより重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現。特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。

学習の個性化

子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整する。

GIGAスクール構想

ICT活用の特性・強みを生かし、新学習指導要領の趣旨を実現するため重要な役割を果たす

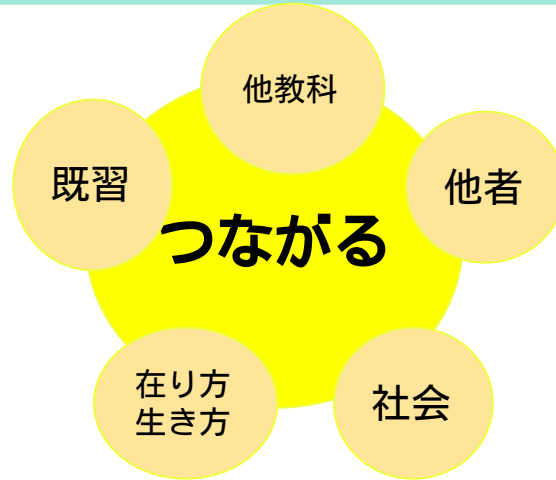
1-3 かわさきGIGAスクール構想とは

かわさき教育プラン

夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く学び

自主・自立 共生・協働

本市では、「未来社会の創り手を育むかわさきGIGAスクール構想」において、1人1台の端末・高速大容量の通信ネットワークを整備し、かわさき教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」を推進します。社会構造が急速に変化し予測困難な時代であっても、多様性を原動力とし、新たな価値を生み出す持続可能な社会の担い手が「未来社会の創り手」です。かわさきGIGAスクール構想では、そのような未来社会の創り手を育てていきます。



既習事項とつながる、他者につながる…「つながる」をキーワードに、「情報活用能力」を基盤として、ステップ1、ステップ2、ステップ3と段階的に学びを変容させていきます。1人1台の端末を通して様々な人・もの・こととつながる中で、未来社会の創り手となる子どもたちに必要な力を育成します。

かわさきGIGAスクール構想

未来社会の創り手を育むかわさきの新しい教育

1-3 かわさきGIGAスクール構想とは

未来社会の創り手を育む かわさきの新しい教育

令和5年度以降はステップ3を想定していますが、各学校の実態に合わせてステップ0・1・2に取り組んでいただいで構いません。特にステップ1「とにかく使ってみる」段階は、教師にとっても子どもにとっても大切な段階です。

ステップ3

R5 かわさき教育プランの実現に向けて

各教科等での学びをつなぎ、探究し、課題を解決できる。

様々な人と共に学び合い、社会課題を解決する中で、自分自身について考える。

自主・自立

端末を主体的に活用し、クラウド上にある各教科等の様々な学びを振り返り、それらをつながら、様々な社会課題を解決する。

共生・協働

端末を通して他校の友達、地域の人、外国人等社会課題を共に解決する中で、自分自身の在り方や生き方について考える。

ステップ2

R4 端末を活用した授業改善へ

主 クラウドに蓄積した自らの学習状況を振り返り、見直しをもちたり、次の学習につなげたりする。

対 クラウドを通して、子ども同士の対話が活性化し、教職員や地域の人、先哲との対話が容易になり、自らの考えを広げ深める。

深 クラウドに蓄積した学びをもとに知識を相互に関係付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりする。

即時的に見取り、形成的評価ができる。

モニタリング機能により一人一人の考えを即時に見取り、形成的評価ができる。また、クラウド上で教科、単元、日付ごとに整理された子どもの学びや評価したことを振り返って、総合的評価や授業改善に役立てられる。

例えば…

外国語 発表の様子を録音し、再生して確認することで、自分の発話を振り返り次の学習につなげる。

美術 制作の過程で作品を共有し、感じたことや考えたことを伝え合い、考えを深め、さらに自分の作品を評価する。

理科 観察、実験を動画等で記録することで、繰り返し振り返りながら、現象を科学的に分析し、既習や他者の記録や考えと比較する。

ステップ1

R3 とにかく使ってみる

検索サイトを活用した調べ学習ができる。

文章やプレゼンテーションの作成ができる。

一斉学習の場面でも双方向の学びができる。

自分のペースに応じた個別学習ができる。

いつでもどこでも学ぶことができる。

Googleの検索サイトでインターネット検索し、新

ドキュメントで自分自身の考えをまとめたり、スライド

イメージがもちやすくなるようデジタル教材を提示する。(大型テレビ)

ドリルコンテンツを活用し個別学習をする。即時に採点されるので、自分のペースで学習でき、先には進捗状況を確認することが

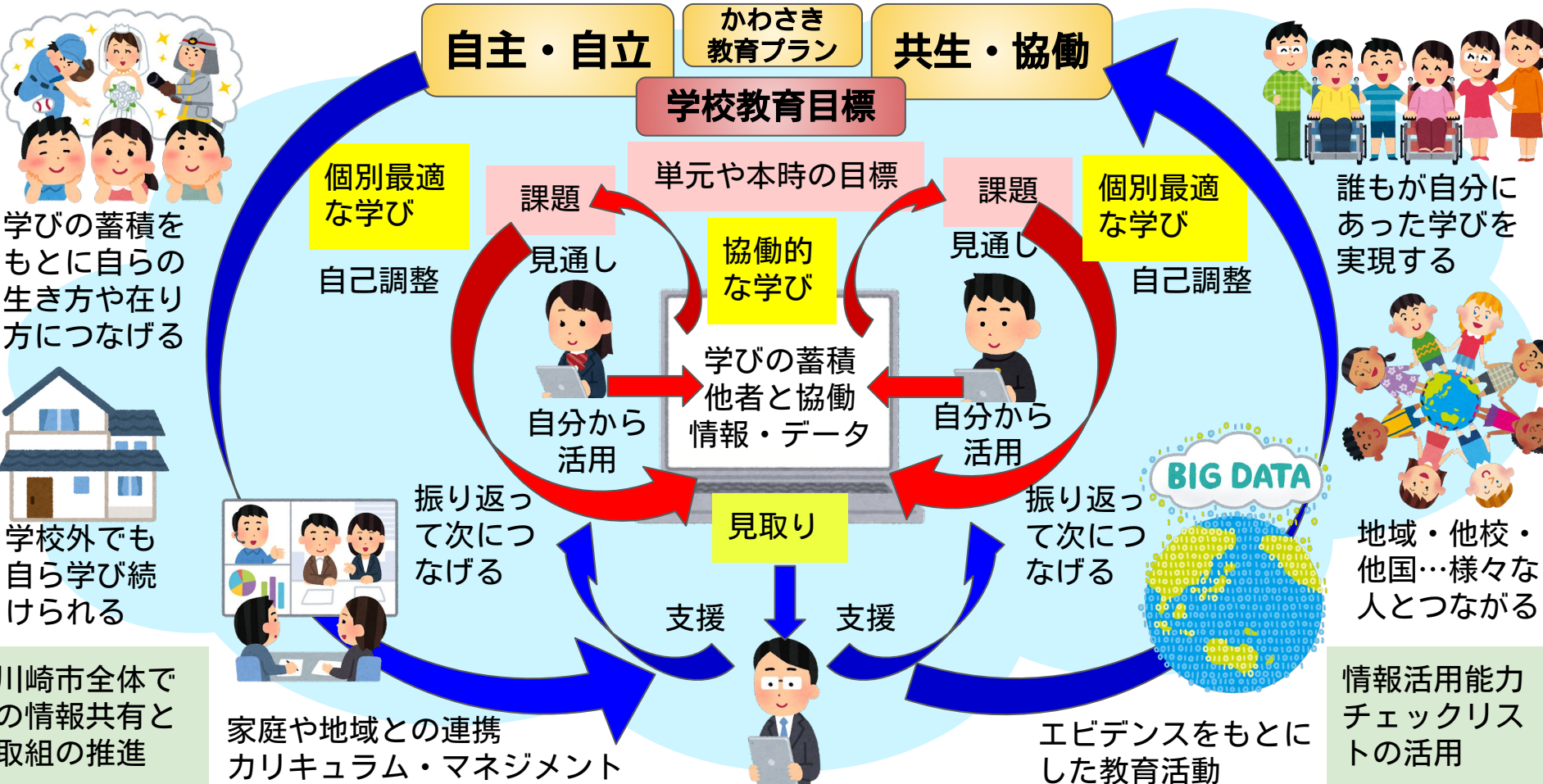
臨時休業中のオンライン指導による学習保障や、ひとり一人の健康

ステップ0 初期指導

R3 初期指導

学習の基盤となる情報活用能力

1-4 ステップ3 一人一人の子どもが主語の端末活用



1-4 ステップ3 一人一人の子どもが主語の端末活用

自主・自立

かわさき
教育プラン

共生・協働

学校教育目標



学びの蓄積をもとに自らの生き方や在り方につなげる

これまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組む

子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越える



誰もが自分にあった学びを実現する



地域・他校・他国...様々な人とつながる

ステップ3の目指す方向はかわさき教育プランと学校教育目標の実現です。個別最適な学びとしての「これまでの経験を振り返ったり、これからのキャリアを見通したりしながら、自ら適切に学習課題を設定し、取り組む」、協働的な学びとしての「子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越える」ためにどのように端末を活用すればよいかを考えます。そして、学校教育目標の実現に向けた端末活用を考えます。まずは基盤となる情報活用能力としての情報活用能力について、「情報活用能力チェックリスト」を活用し子どもの実態を把握するところから始めてみましょう。

情報活用能力
チェックリスト
の活用

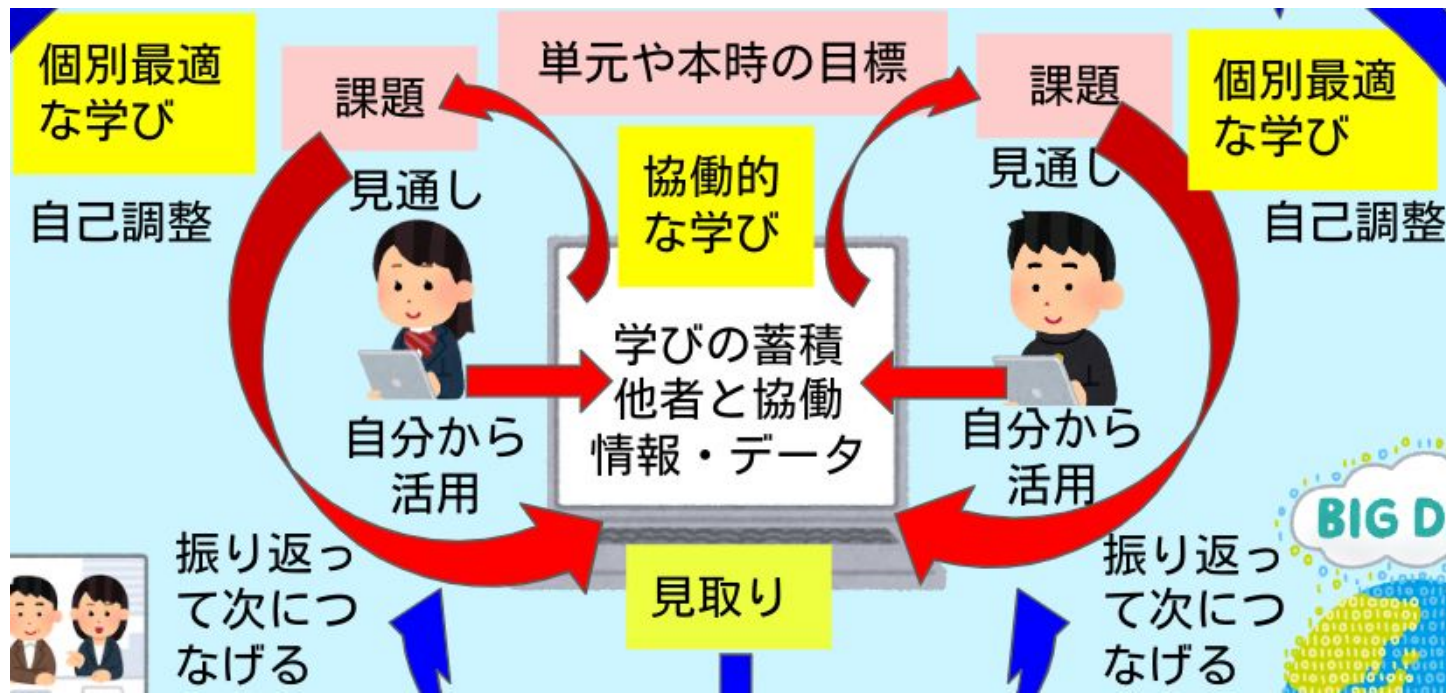


学校外でも自ら学び続けられる

川崎市全体での情報共有と取組の推進

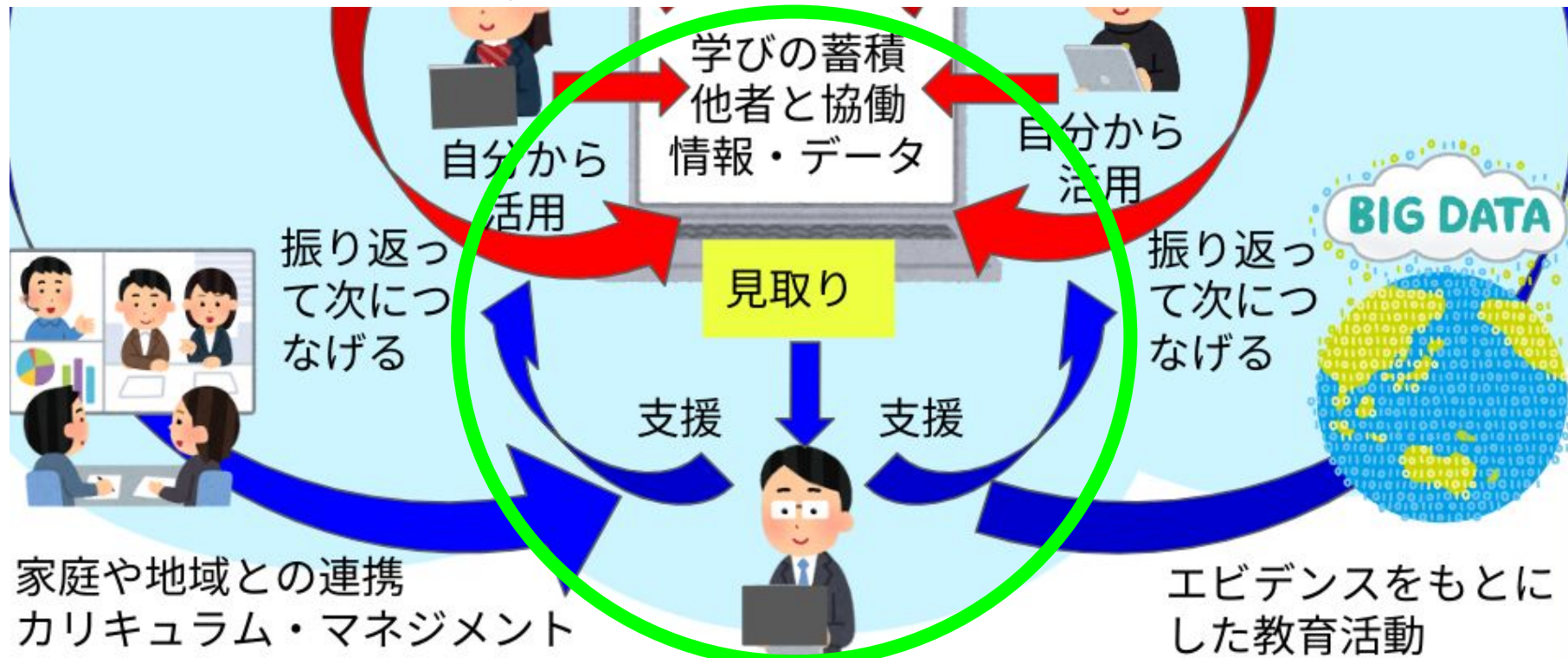
1-4 ステップ3 一人一人の子どもが主語の端末活用

ステップ3の中心は「子ども」です。ステップ3で、子どもは端末内にある学びの蓄積をもとに、それぞれが単元や本時の目標に対する自分の課題をもち学習をします。そして、その解決に必要な情報やデータを得るために端末を活用します。必要な情報やデータの中には、他者の考えを含み、他者と協働しながら課題を解決します。そして最後に次につながる振り返りを行います。そのような個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実する「一人一人の子どもが主語の端末活用」を考えます。



1-4 ステップ3 一人一人の子どもが主語の端末活用

ステップ3では、端末を通して、教師は子ども一人一人の学びを即時的に把握することができ、形成的に評価し、フィードバックします。子どもが端末で作成した成果物等をもとにしながら子どもたちを見取り、保護者にもその取組を伝えることができます。データを読み取りエビデンスをもとにして教育活動を行うことができます。



1-5 学習の基盤となる情報活用能力

「情報活用能力」は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力です。学習指導要領の掲載内容のポイントは次のとおりです。

小・中・高・特 共通のポイント

- 情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けること
- 学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実に配慮すること

小・中・高・特 校種ごとのポイント

【小学校】

- 文字入力など基本的な操作を習得
- プログラミング的思考の育成

【中学校 技術・家庭科(技術分野)】

- プログラミング、情報セキュリティに関する内容の充実

【高等学校 情報科】

- 共通必修科目「情報Ⅰ」の新設
- すべての生徒がプログラミングやネットワーク(情報セキュリティを含む)、データベースの基礎等について学習

【特別支援学校】

- 教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするために、ICTを活用する
- 障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために、ICTを活用する



1-5 学習の基盤となる情報活用能力

情報活用能力

情報や情報手段を主体的に選択し活用する、情報技術の基本的な操作、プログラミング的思考や情報モラル等を含む資質・能力です。各教科等において育むことを目指す資質・能力と同様に、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱によって捉えていけるように、次のように整理されています。

参考: 文部科学省「教育の情報化に関する手引-追補版-」(令和2年6月)

知識及び技能(何を理解しているか、何ができるか)

情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、技術に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。

思考力、判断力、表現力等(理解していること、できることをどう使うか)

様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見いだす力や問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること。

学びに向かう力、人間性等(どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)

情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること。

1-6 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

情報活用能力を育成するために「情報活用能力チェックリスト」を活用しましょう

「川崎市版情報活用能力チェックリスト2023」は、平成29年度に公開された「情報活用能力チェックリスト2017年度版」を基に、文部科学省「情報教育の推進等に関する調査研究」の成果を加味して、GIGAスクール構想での環境で活用することを前提に構成されています。

「情報活用能力チェックリスト」のポイント

- ・情報活用能力に関する学習経験を把握することができます。
- ・子どもが定期的に自己評価することで、学習経験の深まりを把握し、指導に役立てられます。
- ・教師が情報活用能力指導の実施状況を教科横断的に把握することができます。
- ・子ども及び教師共に、情報活用能力を発揮する場面を体系的に把握することができます。

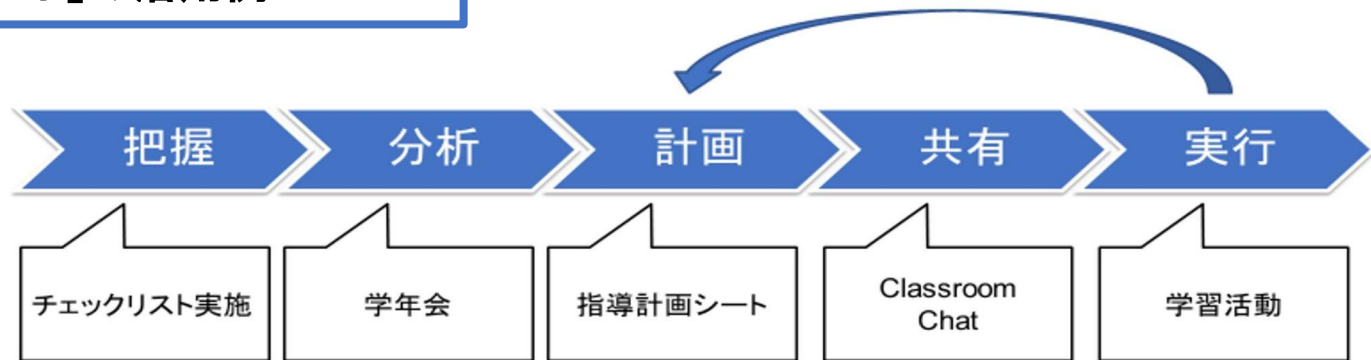
「情報活用能力チェックリスト」の活用方法

- ①チェックリストを見て、情報活用能力を発揮する具体的な「場面」をイメージしましょう。
- ②子どもたちにチェックリストで自己評価させ、実態（児童生徒の認識）を把握しましょう。
- ③把握した実態を基に、育てたい力について重点を設定しましょう。GIGAスクール構想推進計画シート
- ④学習活動の中での具体的な「場面」を考え、日常的に取り組めるように指導・支援しましょう。
- ⑤学期末や年度末などの節目に児童生徒に自己評価させ、学習経験の深まりを確認しましょう。

1-7 情報活用能力チェックリストの活用

「情報活用能力チェックリスト」の活用例

令和3年度 情報活用能力育成研究会議の検証によると、右のような流れで活用すると効果的であることが分かっています。



学年	3年	教科等	算数	単元名	かけ算の筆算
育成したい情報活用能力 (チェックリストの項目)					1 キーボードを使って文字の入力をするのはとくいである。 8 たくさんの友達の意見を知るとより深く考えることができることを知っている。 16 ものごとを比べて、同じところやちがうところを見つけることは得意である。
情報活用能力を発揮させるための学習活動					<ul style="list-style-type: none">・ 3桁×1桁の計算について自分の考えを順序よく説明する (ノート)・ 課題を解決する上で、みんなにとって大切だなと思うことについてクラスルームにコメントを投稿する (テキスト入力)・ 友達のノートや投稿されたコメントを読みながら、同じところやちがうところを見つける (テキスト入力、つぶやき)・ 学んだことをふりかえる (ノート、発言)

学習活動の中での具体的な「場面」を考える際には、左の例に示したような「指導計画シート」を作成すると、学年会などで共通理解しながら進めやすくなります。また、次年度の計画を立てる際に大変有用な記録となります。

1-8 情報活用能力チェックリストを生かしたカリキュラム・マネジメント

情報活用能力とカリキュラム・マネジメント

「情報活用能力」は、「言語能力」や「問題発見・解決能力」等とともに、学習の基盤となる資質・能力です。これらの育成のためには、教科等横断的な学習を充実させる必要があります。

そのため、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保、実施状況に基づく改善などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」を行うことが大切です。

情報活用能力をいつ育成するのか

学習の基盤となる資質・能力は各教科の学びと土台の部分でつながっていますので、次に示すような様々な機会でも育成することができます。

- ①特定の教科・単元に重点をおいて育成する
- ②複数の教科を連携させて育成する
- ③総合的な学習の時間と連携させて育成する

どの機会においても、探究的な学習の過程（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）や各段階で行う振り返りや自己評価を行う際に、情報活用を行う場面を捉えて、なるべくスモール・ステップで繰り返し（日常的に）取り組めるようにして行くことが大切です。

情報活用能力チェックリストを活用すると情報活用の具体的な場面を知ることができ、学習活動に生かします。

1-9 GIGAスクール構想推進計画シート ステップ3

令和5年度 ○○○学校

GIGAスクール構想推進計画シート

第2次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン	国のGIGAスクール構想 かわさきGIGAスクール構想	子どもの実態 情報活用能力チェックリスト
学校教育目標	(低学年/中1) 実態	
校内研究 研究テーマ	(中学年/中2) 実態	
GIGA端末を活用して実現したい子どもの姿	(高学年/中3) 実態	

つけたい力を意識して校内のGIGAスクール構想を推進するための計画シートです。RPDCAのサイクルで子どもの姿から授業や教育活動を改善していきましょう

新たに加わったのが、GIGA端末を活用して実現した子どもの姿と活用したいデータの欄です。

小学校	低学年	中学年	高学年
中学校	1年	2年	3年
知識及び技能			
思考力・判断力・表現力等			
学びに向かう力 人間性等			
活用したいデータ			

- R

チェックリスト等をもとに、子どもの実態をつかむ
- P

情報活用能力の知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等の3つの観点に沿って、学校教育目標等を踏まえて、それぞれの学年で重点としてつけたい力を考え、年間指導計画等に、重点として育成したい情報活用能力の育成を位置づける
- D

GIGA端末を活用して実現したい子どもの姿や情報活用能力の育成を意識し、データを活用しながら取り組む
- C

情報活用能力チェックリストの実施や子どもの姿の見取り
- A

計画シートを見直し、日々の授業や教育活動全体を改善する

1-10 プログラミング教育

小学校：プログラミング的思考を育む

小学校におけるプログラミング教育は、非常に大まかに言えば「プログラミング的思考」を育むことをねらいとしており、川崎市では『5分でわかる情報教育Q&A』（第15版）P. 8、p. 86～P. 91で、「川崎市における□学校プログラミング教育に関する学習活動」を例示しています。

【GIGA端末に入っている関連アプリ】



viscuit



ScratchJr



Artec Devi...

「プログラミング的思考」とは、自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力のことです。

中学校：技術・家庭科（技術分野） D「情報の技術」でプログラミング学習

技術・家庭科（技術分野）では「D 情報の技術」において、生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動や、生活や社会における問題を計測・制御のプログラミングによって解決する活動を行います。

【GIGA端末に入っている関連アプリ】



EV3 Classr...



SPIKE

双方向性のあるコンテンツのプログラミングには、GIGA端末を用いて、WebアプリのScratchなどを使って学習します。

高等学校：「情報Ⅰ」でプログラミング

プログラミングやシミュレーションによって問題を発見・解決する活動を行います。

1-11 国の動向とCBT・MEXCBT・学習eポータル

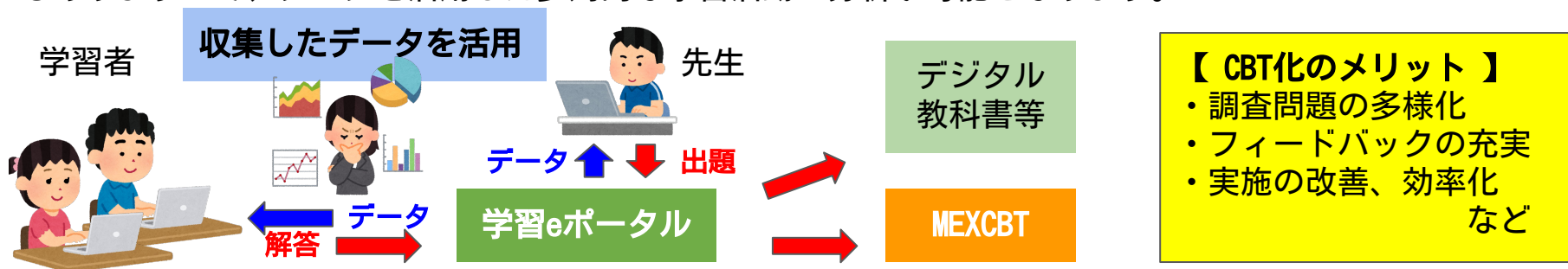
CBT：コンピュータ使用型調査（Computer Based Testing）の広がり

PISA（OECD生徒の学習到達度調査）は2015年からCBTに移行し、TIMSS（国際数学・理科教育動向調査）も2019年調査より一部CBTが導入されるなど、国際的な学力調査においてCBT化が進んでいます。

全国学力・学習状況調査においてもCBT化に向けた取組が推進されており、令和3年度から試行・検証が行われています。

MEXCBT（メクビット）と学習eポータル

MEXCBTとは、GIGAスクール構想により実現する「1人1台端末」を活用した「デジタルならではの」学びを実現するために文部科学省が開発したCBTシステムです。MEXCBTを利用するためには「学習eポータル」から接続する必要があります。この「学習eポータル」には、多様な学習リソース（デジタル教科書・教材、各種ツールなど）をつなぐ窓口としての機能とともに、取り組んだ結果をすぐにデータとして可視化する機能もありますので、データを活用した多角的な学習活動の分析が可能となります。



1-12 ステップ3と川崎市が目指すデータの利活用

家庭との学び
の情報共有



振り返って
次につなげる

キャリア在り
方生き方教育



川崎市全体で
の情報共有と
取組の推進

自主・自立 かわさき教育プラン 共生・協働

学校教育目標

学習状況調査	小テスト等	生活のアンケート	心や体の調子
ドリルパークの進捗	学習の成果物	情報活用能力チェックリスト	
学びのeポートフォリオ		家庭学習	
学習の振り返りの蓄積	行事等生活の振り返りの蓄積	効果測定	

見取り

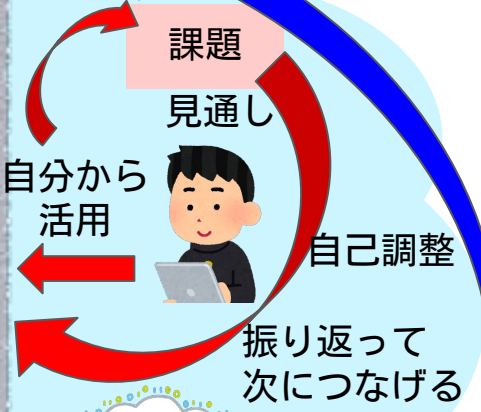
支援 支援



校務支援システム
学務システム



学校教育目標の
実現に向けた
アンケート調査



振り返って
次につなげる

エビデンスを
もとにした
教育活動

1-12 ステップ3と川崎市が目指すデータの利活用

データを用いた学習指導～校務系データと学習系データを組み合わせて～

校務系データ (校務PC)
(総括的評価・学習状況調査等)



データの分析と
実際の子どもの
見取りをセット
にして!

学習系データ (GIGA端末)
(小テスト・ドリルパーク進捗・
学習の成果物・振り返り等)

学習指導

見通し 課題

自分から
活用

自己
調整

振り返って
次につなげる

GIGA端末を活用すればするほど、子どもたちのデータが蓄積されていきます。これまでは総括的評価等の校務系データしかなかったものの、GIGA端末の学習系データと組み合わせることによって、よりの確に子どもを見取ることができるようになります。教師はそれらのデータの分析と実際の子どもの見取りを合わせて学習指導に生かします。具体的にはClassroomを活用した小テストや、ミライシードのドリルパークや評価をつけたオクリンクでの成果物、子どもの振り返りなどから形成的な評価をして子どもたちにフィードバックするとともに、授業を改善します。また、子ども自身がそれらのデータを活用して自分の課題を見つけ、振り返って次につなげるといった学びを自己調整することも大切です。

1-12 ステップ3と川崎市が目指すデータの利活用

データを用いた児童生徒指導～校務系データと学習系データを組み合わせて～

校務系データ (校務PC)

(出欠情報・健康診断情報・
保健室利用情報等)



データの分析と
実際の子どもの
見取りをセット
にして!

学習系データ (GIGA端末)

(学習記録データ・
生活アンケートデータ等)

児童生徒指導

課題

見通し

自己
調整

自分から
活用

振り返って
次につなげる

校務系のデータを活用することで、子どもの心身の状態の変化に気付きやすくなり、悩みを抱える子どもの早期発見、早期対応の一助になることが期待されます。また、学習指導と児童生徒指導は相関的な関係を持つことを経験的に実感している先生方も多いのではないのでしょうか。学習上のつまずきや悩みが子どもの孤独感や閉塞感につながることも考えられることから、学習系のデータを省察する意義も大きいと言えます。また、子どもたち自身もデータを活用して、自分自身の心や体の変化に気付けるようになることも大切です。

一方で、ICTにおけるデータを児童生徒指導に活用することは、状況把握のための一手法にすぎません。支援を画一化することなく適切に対応する体制を構築しておきましょう。

1-12 ステップ3と川崎市が目指すデータの利活用

デジタイゼーション

ステップ1

「とにかく使ってみる」
紙をデジタルに。データを蓄積

デジタライゼーション

ステップ2

「一人一人の学びをつなぐ」
データ活用による指導の改善
・効率化・最適化

デジタルトランス フォーメーション

ステップ3

「一人一人が主
語の端末活用」
データ活用による
新たな価値の
創出

ステップ3のキーワードの1つは「データの利活用」

参考: 経済産業省の「デジタルトランスフォーメーションの加速に向けた研究会」の「DXレポート2 中間取りまとめ(概要)」

教育DXは蓄積された様々なデータをどのようにして活用していくかを考え、それを生かして学びや学校の在り方を変革させていくことです。まずは「とにかく使ってみる」段階を大切に、利活用できるだけのデータを蓄積していくことが必要で、そこから効率化・最適化を図っていきます。そのうえで「学ぶとはなにか」「学校のあり方は」といった新たな価値の創出を生み出していき、教育DXが実現していきます。

「どこからでも」「誰とでも」「いつでも」「自分らしく」学べる 川崎の新しい教育へ

1-13 デジタル教科書・副読本

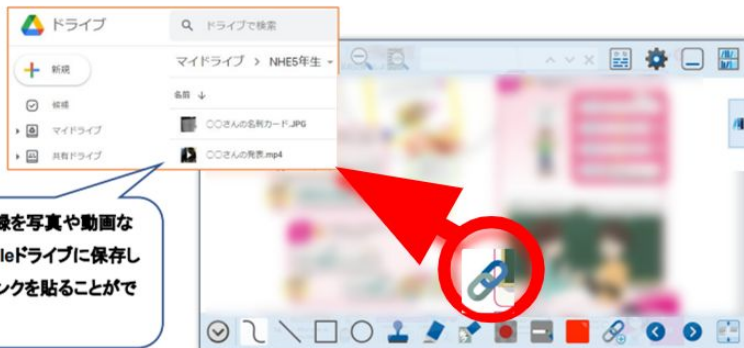
R5年度に全国の小5～中3の子どもたちに配布される英語の学習者用デジタル教科書（一部の学校にはその他の教科も配布）や、川崎市の地域素材から学べるよう工夫されたデジタル副読本を用いて、個別最適な学びに向けた、デジタルの強みを生かした学びを実現していきます。

☆外部リンク機能

[（参考）学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン](#)
学習者用デジタル教科書にはその単元と関連のあるサイトのリンクがあったり、逆に子どもたちが自ら探してきたサイトのリンクや過去の自分の学びをリンク先として貼ったりできます。

（参考）東京書籍

調べ学習などで参照したWebサイトのリンクなどを紙面に追加することができます。



学習の記録を写真や動画などでGoogleドライブに保存しておき、リンクを貼ることができます。

（参考）環境局 『環境副読本』より



自然と人間が支え合うために、何ができるのかな？副読本で調べてみよう。

知るだけでなく「かわさき生き物マップ」のリンクへジャンプしてデータ活用



自分たちでデータを作ってみよう！



副読本ポータルサイト

1-14 家庭でも端末を活用して主体的に学ぶ

家庭で発揮される主体的な姿

学校で学んだ学び方や自分のペースや学び方で家庭でも学ぶ姿が報告されています。端末があれば自分の興味関心に合わせた学びを実現できます。

次の算数は苦手なところだからドリルパークで復習しておこう。

前から知りたかった事についてGIGA端を使って詳しく調べられたよ。

調べ学習

振り返り

スライドに表現する学習

授業で終わらなかったから、続きを家でやりたいな！

学校で正しく使えているから、家でも安心して使えるね！



学校で日常的に活用することで、児童生徒の情報モラルの意識が高まり、端末持ち帰りに際して特別な指導をする必要もなくなることや、家庭に持ち帰って学習を行うことの必然性が子どもの中でも生まれ、家庭での端末を活用した主体的な学びにつなげることができます。

日常的な活用と持ち帰りの関係性

1-15 校内GIGA推進と同僚性・関係性

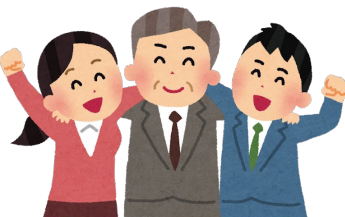
本市と東京大学大学院情報学環、内田洋行教育総合研究所との共同研究によりGIGAスクール構想以降、端末活用が進んでいる学校を対象にインタビュー調査を行ったところ、校内GIGA推進の鍵は学校内の同僚同士が互いに支え合い、成長する重要な関係を表す「同僚性」や「関係性」であるということが見えてきました。

教員相互の同僚性

端末をよく活用している学校では、教室や教員のコミュニティが活発であることが分かりました。また、もともとの教員の同僚性に加えて、ICTを活用した活動を支える組織的支援も大切です。

具体的な姿

- 教員コミュニティの活動も活発
- 端末活用に関する問題の協同的な解決
- 教員が学校内外のリソースを用いて自己研鑽している
- 管理職の先生方の取り組みに支えられている



教員と児童生徒の関係性

教員間だけでなく、子どもの姿からも学ぼうとするような教員と子どもとの関係性が大切であるという新たな視点も見えてきました。そのためにも、協働的に端末を活用する機会を設けることが大切です。

具体的な姿

- 教室コミュニティの活動が活発
- 子どもの活用機会を保障するためのルールづくり
- GIGA端末を用いることで学習活動を拡張したり、学習へ動機づけられたり、自律的に学習したりする子どもの姿
- 教員に触発される子どもの姿
- 子どもから学ぶ教員の態度

1-16 校内GIGA推進と支援員

ICT支援員訪問時の活用イメージ

端末準備やアプリケーションの操作等の学習支援や安定的に活用するための端末管理・整理、教材作成の支援、また校内研修支援等も依頼できます。

時間	支援内容【例】
8時30分	<u>本日の支援内容確認</u> →支援依頼シートや連絡ノートを活用
1時間目	<u>授業支援</u> →操作支援(オクリンク写真添付・提出)
2時間目	<u>授業支援</u> 操作支援(Classroom課題提出・手書き入力)
休み時間	<u>GSLと詳細の打ち合わせ・職員室で質問応答</u>
3時間目	<u>校内巡回</u> →必要な教職員や児童生徒への支援
4時間目	<u>GSLと打ち合わせ・職員室で質問応答</u>
5時間目	<u>環境整備支援</u> →保管庫整理等
放課後	<u>教職員からの質問応答・GIGA部会・ミニ校内研修</u> →最近の授業で困ったこと・他校の好事例活用紹介・個別対応等 <u>GSLと次回支援内容の相談・今後の予定について</u>

朝は慌ただしいので、連絡ノートを活用し、1日の支援内容のやりとりをしています。(A小学校GSL)



GIGA部会に参加し、校内の端末活用の様子から気付いた事や他校の好事例紹介等、より効果的な端末活用について共有しています。(支援員)



GSLが主催する放課後ミニ研修に支援員に参加してもらい、操作面から具体的なアドバイスをもらっています。(B中学校GSL)



1-17 教師のICT指導力と研修

自分のスキルをチェックし、不安なところは次のページの研修で補います。

参考
文部科学省「教員のICT活用指導力チェックリスト」平成30年6月
横浜市教育委員会事務局「教職員のICT活用指導力向上のための研修ガイド」令和3年3月

1. かわさきGIGAスクール構想におけるGIGA端末活用指導力と研修

文部科学省は①教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 ②授業にICTを活用して指導する能力 ③児童生徒のICT活用を指導する能力 ④情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力 の4つを教員のICT活用指導力としています。川崎市では、①②を授業でGIGA端末を活用して指導する力、③④を情報活用能力について指導する力としてまとめ、かわさきGIGAスクール構想を推進するためのマネジメント力を加えた3つをGIGA端末活用指導力としました。

	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ
学習指導等 (効果的にICTを活用する)	GIGA端末等ICT機器の基本操作及び授業での活用法を習得し、子どもがICTを活用して学ぶ場面を授業に取り入れるとともに、データから子どもの学習状況を適切に把握する。	ICTを日常的かつ効果的に活用した授業を計画・実施するとともに、データをもとにして子どもの学習状況を適切に把握し、同僚等と協働的に授業改善を図る。	学校教育目標の実現に向けたICTの効果的な活用について、情報活用能力の育成を含めた学校全体での組織的なカリキュラムの作成及び改善を推進する。
児童生徒指導等 (情報モラル・情報セキュリティについての態度を養う)	情報モラル及び情報セキュリティの基本的な知識を理解し、子どもの発達の段階とその特徴を踏まえた指導を行う。	子どもの発達の段階とその特徴を踏まえた情報モラル及び情報セキュリティの指導について、学年等で意図的、計画的に推進する。	子どもの発達の段階とその特徴を踏まえた情報モラル及び情報セキュリティの指導について、指導体制を構築し、学校全体で計画的、組織的に実践する。
学校マネジメント (教育の情報化が進んだ学校をつくる)	教育の情報化についての内容及び校内での推進体制を理解し、業務でICTを積極的に活用する。	学校教育目標の実現に向けてICTを日常的に活用し、教育の情報化について学年や学校全体で連携、協働して推進する。	教育の情報化の推進について学校全体での体制を構築するとともに、学校情報管理に努め、データをもとにして学校の教育活動の改善を図る。

1-18 川崎市で連携して推進するGIGAスクール構想

かわさきGIGAスクール構想 情報共有サイト

知りたい情報がここに！画面左上ブックマークから。

- ・教職員向けハンドブック0・1、2、3
- ・各学校の実践事例、各教科等の実践事例
- ・研修で活用した資料
- ・各種申請フォーム

情報共有Classroom

誰かに相談したいとき、資料を共有したいときにご活用ください。

川崎市の教職員は誰でも参加できます。

The screenshot shows the homepage of the Kawasaki GIGA School Concept Information Sharing Site. The header features the title 'かわさきGIGAスクール構想 情報共有サイト' in large, bold Japanese characters, accompanied by an illustration of two children looking at a tablet with a rainbow in the background. Below the header, there is a navigation menu on the left with options like 'ホーム', '教職員向けハンドブック', '資料', '川崎市教育サイト', '研修', '実践事例', and '各種申請'. The main content area includes a welcome message '情報共有サイトへようこそ！' and a list of resources such as handbooks, practical cases, and application forms. There are also icons for various services like Zoom and YouTube.

The screenshot shows the interface of the Kawasaki GIGA School Concept Information Sharing Classroom. The header includes the title 'かわさきGIGAスクール構想 情報共有 旧「GIGAスクール推進教師（GSL）」クラスルーム' and navigation tabs for 'ストリーム', '授業', 'メンバー', and '採点'. The main content area features a large banner with the same title and illustration as the homepage, along with a 'カスタマイズ' button. Below the banner, there is a 'Meet' section with a '参加' button and a 'クラスへの連絡事項を入力' field. At the bottom, there is a note: '生徒には表示されません'.

付録 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023			ステップ0	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
第1	第2カテゴリ	第3カテゴリ	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	高等学校
知識及び技能	問題解決・探究における情報活用の方法の理解	情報収集、整理、分析、表現、発信の理解	6 知りたいことを本で調べることができる。	6 知りたいことを、インターネットで調べることができる。	6 知りたいことを、キーワードの組み合わせを考えながらインターネットで検索することができる。	6 知りたいことを、本やインターネットなど複数の方法で調べ、情報の正確性や信頼性を確認しながら的確な情報を取捨選択することができる。	6 目的に応じて、本やインターネットなど複数の方法で調べ、情報の信頼性や信憑性を確認しながら的確な情報を取捨選択することができる。
			7 GIGA端末で先生から課題を受け取ったり、作ったものを提出したりすることができる。	7 写真を使ってオクリンクやスライドなどで発表用のスライドを作ることができる。	7 写真や図や文章を組み合わせたスライドを作ることができる。	7 目的に応じて、友達とドキュメントやスプレッドシート等を共有して協働して学習することができる。	7 グループで作業を進めるためのメッセージやファイルの交換や共有の仕方が分かり、目的に応じて、友達と協働して学習することができる。
			8 情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	8 たくさんの友達の見解を知ると、もっとよく考えられることを知っている。	8 同じところや違うところを比べると、たくさんの情報を整理できることを知っている。	8 解決の方法を考えると、変える条件と変えない条件を整理することを知っている。	8 他者の考えと比較しながら目的や意図に応じて情報を整理することで、根拠に基づいた説明ができることを知っている。
	情報技術の役割・影響の理解	情報技術の役割・影響の理解	9 インターネットにはよくない情報もあるので、大人の人と一緒に使うことを知っている。	9 インターネットには、正しくない情報や危険な情報があり、見つけたときは大人に相談することを知っている。	9 悪意がある情報や不適切・不正なサイト、勝手に共有されたファイルを見つけたときは、大人に相談することを知っている。	9 悪意がある情報や、不適切・不正なサイトや勝手に共有されたファイルを見つけたときは、大人に相談するとともに、その情報を拡散しないようにすることを知っている。	9 悪意がある情報や、不適切・不正なサイトやメール、勝手に共有されたファイル等について、どのように対応すべきか知っていて、その情報を拡散することはないということも知っている。
			10 新聞・テレビなどのニュースやインターネットの情報は、伝える側の思いや考えによって違うことを知っている。	10 インターネットや新聞、テレビ等情報を伝えるメディアの特徴や、視点を変えることで色々な見方ができることを知っている。	10 インターネットや新聞、テレビなどのメディアからの情報には発信者の意図が含まれているため、その正確性や信頼性について批判的に考え、内容を読み取るようにしている。	10 インターネットや新聞、テレビなどのメディアからの情報には発信者の意図が含まれているため、その信頼性や信憑性について批判的に考え、内容を読み取るようにしている。	

付録 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

			ステップ0	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4				
第1	第2カテゴリ	第3カテゴリ	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	高等学校				
情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	情報モラル・情報セキュリティの理解	10	友達が書いたものや作ったものは大切にし、勝手に使ったり消したりしてはいけないことを知っている。	11	自分の文章の中に他の人の言葉を使う時（引用する時）は、その部分に「」をつけて書くことを知っている。	11	自分の文章の中に他の人の言葉や文を引用するときは、その部分に「」をつけてそのまま書き、引用元を明記することを知っている。	11	自分の文章の中で、引用する本や文、語句などを「」でくくってそのまま抜き出して書き、参考にした資料を参考文献として必要事項を明記したり、入力したりすることを知っている。	11	著作者の権利を不当に害することのないよう、本やウェブページにある情報を引用する際は、利用規約を確認するなどして著作権に配慮した方法について知っている。
		11	人の写真を勝手にとってはいけないことを知っている。	12	人の写真を撮るときや作品を使うときは、その人の許可が必要だと知っている。	12	人の写真を撮るときや作品を使うときは、その人の許可が必要だと知っている。	12	人の写真や文章等を公開する（SNSを含むWebへアップロードする）時には、肖像権・著作権を尊重し、必要に応じて相手から承諾を得て、出典や引用先を明らかにしている。	12	人の写真や文章等を公開する（SNSを含むWebへアップロードする）時には、肖像権・著作権を尊重し、必要に応じて相手から承諾を得たり、利用規約を確認した上で、出典や引用先を明らかにしている。
		13	書き込んだ情報は、インターネット上に残ったり広がったりする危険があることを知っている。	13	発信した情報は、インターネット上に残ったり広がったりする危険があることを知っている。	13	発信した情報は、インターネット上に残ったり広がったりする危険があることを知っている。	13	発信した情報は、インターネット上に残ったり広がったりする危険があることを知っている。	13	発信した情報は、インターネット上に残ったり広がったりする危険があることを知っている。
		12	IDやパスワードは大切であることを知っている。	14	個人情報やID、パスワードが大切であり、他人のIDやパスワードでログインしてはいけないことを知っている。	14	個人情報やID、パスワードが大切であり、自分で安全管理する必要があることや他人になりすましてログインしてはいけないことを知っている。	14	個人情報やID、パスワードが大切であることを理解し、パスワードは他人がわからないものに定期的に変更し、安全に管理するとともに、他人になりすましてログインしたり情報を発信したりしてはいけないことを知っている。	14	推測されにくいパスワードを利用し適切に管理すること、ソフトウェアは最新のプログラムに更新すること、不正アクセス禁止法等の法規を理解することなど、情報セキュリティを確保して安全に端末を活用している。

付録 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

			ステップ0	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
第1	第2カテゴリ	第3カテゴリ	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	高等学校
思考力 判断力 表現力等	問題解決・探究における情報活用する力 (プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報と結びつきの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受けた状況を読み取って発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力 等	13 人の話をよく聞いて、質問や感想を言うことができる。	15 話を聞きながら、大事なと思うことをメモすることができる。	15 話し手の言いたいことを考えて聞き、大事なと思うことをメモを取ることができる。	15 話し手の言いたいことを読み取るために、必要に応じて質問したり、文字や写真、音声や動画など場面に応じて記録したりすることができる。	15 話し手の言いたいことを読み取るために、必要に応じて質問したり、文字や写真、音声や動画など場面に応じて記録したりすることができる。
			14 似ているところと違うものを比べて仲間分けをすることができる。	16 同じところや違うところを比べて、問題を見つけることができる。	16 見いだした問題に対して、解決の方法を考えることができる。	16 見いだした問題を効果的に解決するために、多面的に調べ、目的や意図に応じて情報を整理し、必要なものを選んでまとめることができる。	16 見いだした問題を効果的に解決するために、多面的に調べ、目的や意図に応じて情報を整理し、必要なものを選んでまとめることができる。
			17 同じ種類や仲間に分け、図や表に整理することができる。	17 集めた情報を読み取り、表やグラフ「考えるための技法(思考ツール等)」に整理して表すことができる。	17 集めた情報を読み取り、表やグラフ「考えるための技法(思考ツール等)」に整理して新たな意味を見いだすことができる。	17 アンケート等で収集したデータを、表計算ソフトやテキストマイニング等を使って分析し、分かりやすく可視化して活用することができる。	17 アンケート等で収集したデータを、表計算ソフトやテキストマイニング等を使って分析し、分かりやすく可視化して活用することができる。
			18 表やグラフを読み取ったり調べたことを整理したりすることができる。	18 表やグラフから、必要な情報や数値を正確に読み取ることができる。	18 表やグラフから、必要な情報や数値を正確に読み取ることができる。	18 表やグラフから変化や傾向を読み取り、データをもとに分かりやすく説明することができる。	18 複数の表やグラフなどのデータから数値や傾向を読み取り、分かりやすく説明することができる。
			19 集めた情報から必要なものを選んでまとめることができる。	19 集めた情報から必要なものを選んでまとめることができる。	19 知りたいことを図書資料や統計資料など複数の情報を集めて、整理・分析することができる。	19 本やインターネット等複数の方法で調べ、情報源の信頼性を判断し、情報を適切に活用することができる。	19 本やインターネット等複数の方法で調べ、情報源の信頼性を判断し、情報を適切に活用することができる。
			15 声の大きさや話す速さに気をつけて話すことができる。	20 相手に伝わるように、声の大きさに気をつけたり、間を取ったりしながら話すことができる。	20 集めた情報を比較したり必要なものを選んで取りまとめることができる。	20 グループで話し合うときに、発言者の意図や内容を理解して話を聞き、関連させながら自分の意見を述べることができる。	20 グループで話し合うときに、発言者の意図や内容を理解して話を聞き、関連させながら自分の意見を述べることができる。
			16 伝えたいことを順序に気をつけて話すことができる。	21 自分の考えを伝えるときには、理由や例を挙げて話すことができる。	21 自分の考えが伝わるように、調べた情報を他の情報と比較して、他の人の意見を工夫して取り入れることができる。	21 説明するときにGIGA端末を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。	21 目的に応じて適切かつ効果的な表現方法やデザインを考え、自分の考えが伝わるように工夫することができる。
17 見せたいものをテレビなどに大きく映して説明することができる。	22 調べたことを、写真や図を組み合わせてスライドにまとめて発表することができる。	22 自分の考えが伝わるようなアプリを選び、資料を活用するなど、表現を工夫することができる。	22 情報を統合して論理立てて考え、目的や意図に応じて新聞やリーフレット、スライド等にまとめて伝えることができる。	22 情報を統合して論理立てて考え、目的や意図に応じて新聞やリーフレット、スライド等効果的な方法を選択してまとめ、伝えることができる。			

付録 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

ステップ0			ステップ1		ステップ2		ステップ3		ステップ4				
第1	第2カテゴリ	第3カテゴリ	小学校低学年		小学校中学年		小学校高学年		中学校				
問題解決・探究における情報活用の態度		18	多角的に情報を検討しようとする態度	18	知りたいことはなるべく自分の力で調べるようにしている。	23	課題に合わせてインタビューをしたりアンケートを取ったりして、いろいろな方法で情報を採るようにしている。	23	課題に合わせていろいろな方法で情報を採ったり調べたりするなかで、情報を比較して活用するようにしている。	23	自ら収集した複数の情報を比較して、根拠を挙げて自分なりの考えを提案するようにしている。		
			24	試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	24	調べたりまとめたりする活動を振り返り、他の学習に生かすようにしている。	24	伝えたいことが受け手にきちんと伝わっているか、自分の発表を振り返り、次の学習に生かすようにしている。	24	伝えたいことが受け手の状況に応じてきちんと伝わっているか自分の発表の仕方を振り返り、自分の発表をよりよいものに改善するようにしている。	24	伝えたいことが受け手の状況に応じてきちんと伝わっているか自分の発表の仕方を振り返り、自分の発表をよりよいものに改善するようにしている。	
学びに向かう力 人間性等	情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	19	責任をもって適切に情報を扱おうとする態度	19	自分の発表の仕方の良いところや気をつけたいことを振り返って、もっとよくなるように考えるようにしている。	25	自分や他の人の個人情報（名前・電話番号・住所・ID・パスワード等）を知らない人に教えないようにしている。	25	個人情報をネットワーク上に書き込まないようにしたり、パスワードを他の人にわからないようにしている。	25	個人情報をネットワーク上に書き込まないようにしたり、パスワードを他の人にわからないようにしたりして、安全に利用するために情報セキュリティを意識した行動をするようにしている。	25	情報漏洩や不正アクセス等についての事例や情報に関する法規とその意味を知っていて、個人情報やパスワードを安全に利用するために情報セキュリティを意識した行動をするようにしている。
		20		20	自分や友達の情報（名前・電話番号・住所・ID・パスワード等）を知らない人に教えないようにしている。	26	メッセージや画像・動画を送るときは、誰が見るか、その内容が適切かどうかなど考えるようにしている。	26	SNSやメールなどでメッセージや画像・動画を送るときには、誰が見るか、その内容が適切かどうかなど考え、情報社会における自分の責任や義務を踏まえ行動するようにしている。	26	SNSやメールなどでメッセージや画像・動画を送るときには、誰が見るか、その内容が適切かどうかなど考え、情報社会における自分の責任や義務を踏まえ行動するようにしている。	26	SNSやメールなどを利用する際には、情報の発信先、伝達先には必ず人間がいることを意識して、発信先、伝達先にとって分かりやすくかつ不快な思いをさせないような情報の発信・伝達をするようにしている。
		21		21	GIGA端末やゲーム機は使いたすぎないよう、時々目を休ませながら使うようにしている。	27	GIGA端末やゲーム機などを使いたすぎないよう、約束を守って使うようにしている。	27	GIGA端末やゲーム機、スマートフォン等を使いたすぎないよう、時間や場所、姿勢に気をつけて使うようにしている。	27	GIGA端末やゲーム機、スマートフォン等の使いたすぎによる健康への影響を考えて、時間や場所、姿勢に気をつけて使うようにしている。	27	情報機器を活用する際には、照明や使用時間、正しい姿勢や適度な休憩など健康に留意した環境や習慣を考えるようにしている。
		22		22	落とさないように気をつけるなど、GIGA端末は約束を守って大切に使うようにしている。	28	調べてまとめたり、発表したりする学習では、GIGA端末を活用するようにしている。	28	自分からGIGA端末を活用し、データをもとに自分自身の学びを振り返るようにしている。	28	必要に応じて自分からGIGA端末にあるデータを活用し、学習するようにしている。	28	課題や目的に応じて自分から端末を活用し、データをもとに問題解決するようにしている。

付録 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

			ステップ0	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
第1	第2カテゴリ	第3カテゴリ	特別支援1段階 (Ⅰ・Ⅱ)	特別支援2段階 (Ⅲ-1~Ⅲ-2)	特別支援3段階 (Ⅲ-2~Ⅳ)	特別支援4段階 (Ⅲ-2~Ⅴ以上)	特別支援5段階 (Ⅳ~Ⅴ以上)
知識及び技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	情報技術に関する技能	1 情報機器を起動することができる。	1 情報機器を起動してログインすることができる。	1 かな入力などを使いながら文字の入力ができる。	1 ローマ字で文章を打つことができる。	1 ローマ字入力で日本語とアルファベットが混ざった文章を打つことができる。
		情報と情報技術の特性の理解 記号の組み合わせ方の理解	2 インターネットを指導の担当者と一緒に使うことができる。	2 インターネットを使った検索の仕方を知っている。	2 簡単な表やグラフの読み方がわかる。	2 表やグラフの読み方が分かる。	2 テレビやインターネットのニュースなどの表やグラフを読み取ることができる。
	問題解決・探究における情報活用の方法の理解	情報収集、整理、分析、表現、発信の理解	3 情報機器を起動したり、画面をタップしたり、スクロールしたりすることができる。	3 情報機器の簡単な扱いや操作方法を知っている。	3 情報機器を扱い、インターネットで知りたいことを検索できる。	3 情報機器を扱い、インターネットでキーワードを組み合わせて知りたいことを検索できる。	3 情報機器を扱い、知りたいことをキーワードを組み合わせて検索サービスを選んだりして検索できる。
		情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	4 たくさんの友達の意見を知ると、もっとよく考えられることを知っている。	4 同じところや違うところを比べると、たくさんの情報を整理できることを知っている。	4 解決の方法を考えると、変える条件と変えない条件を整理することを知っている。	4 他者の考えと比較しながら目的や意図に応じて情報を整理することで、根拠に基づいた説明ができることを知っている。	4 複数の情報を比較することで、目的や意図に応じた整理ができ、妥当な結論が導き出せることを知っている。
	情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	情報技術の役割・影響の理解	5 テレビやラジオなどの映像や音に耳を傾けることができる。	5 テレビなどの映像を見て、簡単なあらすじや内容を知っている。	5 新聞やテレビなどの様々なメディアの特徴を知っている。	5 情報が人や社会に果たしている役割を知っている。	5 情報デザインの基本的な考え方を知り、表現する基礎的な技能を身に付けている。
		情報モラル・情報セキュリティの理解	6 自分のものと他者のものを区別することができる。	6 許可を取って他者の写真を撮影することができる。	6 個人情報やID、パスワードなどの重要性について知っている。	6 情報を発信するときには、その情報が残ったり、広がったりする危険性があることを知っている。	6 情報に関する法規とその意味を知っている。

付録 川崎市版情報活用能力チェックリスト2023

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023			ステップ0	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
第1	第2カテゴリ	第3カテゴリ	特別支援1段階 (I・II)	特別支援2段階 (III-1~III-2)	特別支援3段階 (III-2~IV)	特別支援4段階 (III-2~V以上)	特別支援5段階 (IV~V以上)
思考力 判断力 表現力等	問題解決・探究における情報を活用する力 (プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受けての状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等	7	7	7	7	7
			8	8	8	8	8
			9	9	9	9	9
			10	10	10	10	10

川崎市版情報活用能力チェックリスト2023			ステップ0	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
第1	第2カテゴリ	第3カテゴリ	特別支援1段階 (I・II)	特別支援2段階 (III-1~III-2)	特別支援3段階 (III-2~IV)	特別支援4段階 (III-2~V以上)	特別支援5段階 (IV~V以上)
学びに向かう力、人間性等	問題解決・探究における情報活用の態度	多角的に情報を検討しようとする態度	11 情報機器を大切に扱い、使い終わったら所定の場所に戻したり、充電したりするようにしている。	11 感情などを情報機器を通して他者に伝えるようにしている。	11 知りたいことはなるべく自分の力で調べるようにしている。	11 課題に合わせて様々な方法で情報を探し、集めた情報をまとめたり、発表したりするようにしている。	11 情報機器を積極的に活用するなど、受け手の状況に応じて正しく伝わっているか発表の仕方を振り返り、次に生かすようにしている。
		試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	12 テレビ等のメディアに興味をもつようになっている。	12 写真や動画を使って感想や気持ちを伝えるようにしている。	12 複数のメディアから得た知識をまとめるようにしている。	12 伝えたいことが受け手にきちんと伝わっているか、自分の発表の仕方を振り返るようにしている。	12 伝えたいことが受け手にきちんと伝わっているか、自分の発表の仕方を振り返り、次に生かすようにしている。
	情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	責任をもって適切に情報を扱おうとする態度	13 情報機器の扱いに関する基本的なルール（指示があるまで勝手に触らないなど）を守って扱うようにしている。	13 自分の個人情報を他者に教えないようにしている。	13 自分や他者の個人情報を他者に教えないようにしている。	13 SNSなどメッセージを送るときには内容等が適切であるか考えるようにしている。	13 自分を守る方法を知り、情報社会における自分の責任や義務を踏まえ行動するようにしている。
		情報社会に参画しようとする態度	14 インターネットに興味をもち、自分から活用するようにしている。	14 意欲的にインターネットを使い、情報を獲得するようにしている。	14 簡単なグラフや表から必要な情報を読み取るようにしている。	14 データを活用し、生活をより良くしようとしている。	14 データの活用方法を検討し、生活の中で生かそうとしている。